

# 市民活動・虎の巻

研究テーマ 『共感の広げ方』

「情報発信」には、情報を多くの人に伝える「拡散」と、活動への関心を引く「共感」の2つの視点があります。例えば、①唐突にボランティアのお願いをするよりも、②団体の目的や活動のストーリーなどを伝え、共感とともにお願いをすることで他人ゴトが自分ゴトとなり、効果的に相手の行動を喚起できます。情報発信に拡散と共感とはともに欠かせない要素です。共感を呼ぶことを心がけ、情報発信を一段階ステップアップしましょう!

※情報の「拡散」については、2019年12月号の本記事をご覧ください



**共感の広げ方① 団体紹介**

**目的** 何のためにどんな事業をしているか伝えること

**方法** 団体のHP/パンフレット

**情報内容** 活動目的/事業内容/連絡先

**共感の広げ方② 成果報告**

**目的** 活動でどんな成果が出ているか伝えること

**方法** 年次の報告書/定期的な会報/随時のSNS報告

**情報内容** 活動の結果・成果/会計報告/次期の計画

※「結果」と「成果」の違いは下記のQ&Aを参照ください

**共感を呼ぶ情報発信のポイント**

3つのポイントを意識すると共感に繋がります。

**A** 自身の体験 (困った体験/人に教えたい体験)

**B** 自身の感情 (何とかしたい/怒っている/みんなに知ってほしい)

**C** 問題意識 (こんな未来を作りたい)

知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌

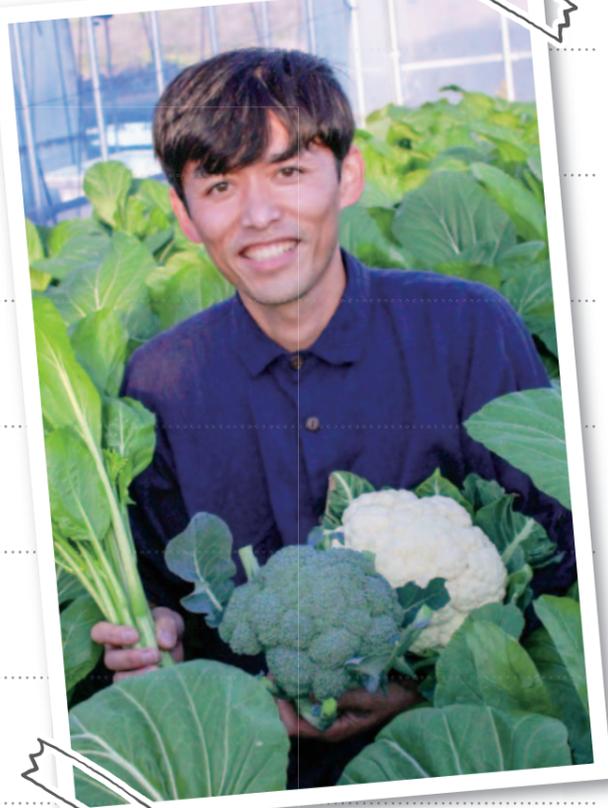


Racotte vol.85  
発行●ながおか市民協働センター



世界で一番枝豆を発信する陰の立役者

## 丸山 豊さん



三味線の調べと語りかけるような唄に魅せられた替女唄プレーヤー。

## 須藤鈴子さん

**毎週月曜日17時頃から放送中!**  
**つながるラジオ**  
FMながおか 80.7MHz  
ながおかの市民活動紹介番組  
放送時間 10分程度 第5月曜日を除く

**ながおかの市民協働のポータルサイト**  
**コライト、見ないと!**  
https://nkyod.org  
協働センターのホームページ「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこらマのバックナンバーも閲覧できます。

- 活動PickUp!
  - 発達障がいのためのコロコ親子の会
  - マウンテントレイラズワシマ
  - AILA2019参加高校生一同
  - 株式会社 丸共
- 市民活動・虎の巻
  - 『共感の広げ方』
- 私たちは○○ができます!
  - 子どもみらい食堂

we can do it!

私たちは **○○ができます!**

長岡には様々なノウハウやスキルをもつ市民団体がたくさん! 困りごと、協力してほしいことはありますか? 私たちが力になりますよ!

**「子どもみらい食堂」は、子ども食堂に関する学びの場づくりができます!**

地域の子育て支援の一環として、毎月の子ども食堂を行うことで、子どもの孤食支援や学習支援を行っています。子ども食堂に関心のある方々へ、当団体の取り組みの説明や研修会の開催ができます。

**協力してほしいこと** 毎月の子ども食堂の手伝い (調理、子どもの対応、絵本の読み聞かせ、学習サポート) または **サポート** (食材寄付、寄付金)

活用しよう! **協働マッチングリスト**

市民活動団体の「協力できること」「協力してほしいこと」をまとめたリストです。リストを開けば、助けになる団体、または力になれる団体がきっと見つかります!

information

**センターからのお知らせ**

**団体とのマッチングをサポート!**  
**「協働マッチングリスト」**

団体の力を役立てたい! 地域活動に関わりたい! 協力してくれる団体はないかな...? ○○に困っている

協働センターに団体登録している市民団体の「協力できること」と「協力してほしいこと」をまとめた「協働マッチングリスト」をぜひ日頃の活動にご活用ください。リストを開けば困りごとを助けてくれる団体が見つかるかも!?

**掲載希望団体募集中!**

リストは協働センターで配布しているほか、webサイト「コライト」からダウンロードも出来ます。

アクセスは左隣の記事のQRコードより

**協働センター Q&A**

よく寄せられるご相談

Q. 活動の結果と成果の違いって?  
A. 結果とは活動量そのもので、成果とは活動によって目標をどれ程達成したか。例えば、子ども食堂では、結果は開催数や参加者数で、成果は孤食率の変化です(成果は目標設定によって異なります)。

Q. 低予算で会報誌を作る方法ありますか?  
A. 協働センターでは市民団体向けに印刷機や紙折リ機、丁合機などを無料で貸し出しているのを活用ください。

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！  
活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。

活動の根っこ  
農業をより身近に☆  
丸山 豊

丸山 豊さん(40歳)  
農家/ながおか農チャレプロジェクト実行委員会 顧問  
1979年旧越路町生まれ。長岡造形大卒業後、造園業を経験後就農。農業イベント等、得意のイラストを活かして盛り上げている。



●丸山さんが今までに手掛けてきたチラシの数々。初めて開催するイベントでは、集客・宣伝だけでなく、スタッフがイベントの全体像をイメージしやすいよう意識して描いています。

## 農業を身近に面白く！ 職業と特技を活かして全国にPR

越路地域で農業に携わる丸山豊さんは、農家に留まらず、あるときは人気イベントの仕掛け人、あるときはイラストレーターとなりチラシやポスターのデザインを手掛けています。

そんな丸山さんのすべての始まりは2009年、農業の知識・技術を磨き、地域農業の振興を図ることを目的とする青年農業士会に加入したこと。「これからは農作物を作っているだけでは厳しいのかなと思うようになりました。そして研修会等に出ると、外向きの発信やPRの大切さを感じるようになりました」。数年後、長岡の農と食を通して豊かな未来を創る「NPO法人思いのほか」の前身となる活動に参加。異業種のメンバーに刺激をもらいながら活動することで、イベントを行うノウハウや外へ発信していく力を身に付けていきました。

その後、青年農業士会長岡ブロックの会長就

任を機に、「ながおか農チャレプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、来場者数1万人を超え、長岡を代表するイベントのひとつとなった「世界えだまめ早食い選手権」を企画。作付け面積全国1位であり、季節になると競うように枝豆を食べる新潟県の食文化に着目し開催しました。「初回の頃は深夜まで会議をすることもありました。目的がブレないように話し合いの時間は大事にしてみました」。また、外向きの発信では、来場者にイベントの意義を押し付けられないよう工夫してきたそう。「主催者の意図をいかに面白く、シンプルに伝えるかがイベント成功の鍵かなと感じています」。

今後は思いを持った方からの依頼であれば、できる限り応えていきたいという丸山さん。「最近では会場のイメージパスやイラストの依頼もあります。自分のスキルを活かし応えていけたらいいなと思います」。

## 雪国越後の大衆芸能 こぜ 替女唄を多くの人に知ってほしい！

こぜ 替女とは、三味線を弾きながら唄をうたい、巡業をする盲目の女芸人です。中でも長岡替女は全国的にも知られるほど活動が盛んでしたが、第二次大戦後に急速に衰退。昭和50年代初頭にその姿は絶えてしまいました。須藤鈴子さんは、その文化を継承する団体「替女唄ネットワーク」に属する「越後替女唄・葛の葉会」の演者として活動しています。

幼少期のピアノ教室から始まり、短期大学ではピアノ・音楽を学び、卒業後も音楽教室の講師をするなど音楽と関わり続けてきた須藤さん。日本の伝統音楽にも興味を持ちはじめた頃、新聞に替女唄教室の広告が出ているのを見つけ、入会しました。その頃、替女文化はすでに衰退しており、須藤さん自身も幼少時に街なかでその姿を目にした記憶がかすかに残っているだけでした。「替女唄を始めて20年余になりましたが、それまで学んでいた発声方法と違うなど、習得には長い間

苦労しました」。公演を重ねるにつれ、次第に替女唄の魅力の後世に伝えたいという気持ちが芽生えるようになったそうです。

昨秋には替女の記憶が残る山古志で、当時の様子を再現したイベントを開催。一般住宅の座敷を会場にした演奏会や玄関先での門付けなどは、地域住民や写真愛好家を中心に多くの反響を得ることができました。

個人的な活動では、地域の野外音楽祭に出演。それをきっかけに「越後替女唄・才蔵'S」を結成。子、孫世代のメンバーとともに替女唄を知らない層ともつながるようになりました。

「昔から気になる事柄にはまず飛び込んでみる性格。音楽的な興味から入った替女の世界ですが、今では替女を長岡の財産と感じ、後世に遺すべき文化としてこれからも関わっていきたいと思います」。

活動の根っこ  
替女唄が大好き♡  
小林ハルさんが大好き♡  
須藤 鈴子

須藤 鈴子さん(68歳)  
主婦/替女唄ネットワーク  
1951年長岡生まれ。音楽教室講師、訪問介護スタッフなどを経験。リタイア後は夫との2人暮らし。



●山古志での演奏会の様子。替女が訪れた当時の事を懐かしむ参加者も多かった。

## 活動PickUp!

### 発達障がいのためのコロロ親子の会 親子の学び合いで広がる未来

長岡



発達障がいや自閉症、言葉の遅れや集団に適應できないなど、行動に問題を抱える子どもたちのために、「コロロメソッド」という療育方法を学び、実践しています。音楽に合わせて運動したり、暖かい時期はトレッキングなど親子のふれあいを中心に活動中。親が集まり学ぶ定例会では、先輩方の話が聞けお互いの学び合いにもなっています。また、療育センターから講師を招致した年一回の講演会も実施し学びを深めています。

生の声は「ラジオ」で！  
「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

### AILA2019参加高校生一同 長岡の国際交流を担う高校生

長岡



長岡市国際交流課主宰のAILA(Advanced International Leadership Academy) というプログラムに参加した高校生12名による団体です。「外国人と話すのが怖い」という思いこみをなくすため、ハロウィンパーティーを開催。外国人と日本人合わせて150人以上が参加し、ゲームやフリータイムを通して交流しました。これからも、国際交流の楽しさや長岡市の魅力をもっと発信できるように活動していきたいです。

### マウンテントレイラーズワシマ ふる里をマウンテンバイクで盛り上げる！

和島



マウンテンバイクと和島が好きなメンバーが意気投合して2019年の春に団体設立。地域内の使われなくなった林道を整備して、マウンテンバイクコースに再生しています。将来的にはタイムを競う大会を開催したり、コースをいくつか整備したりすることで、和島地域内のスポットを周遊できるようにしたいです。マウンテンバイクをきっかけに、和島に訪れる人が増えて交流が生まれたいと思います。

### 株式会社 丸共 ごみを資源に豊かな社会づくり

長岡



昭和36年に創業し、ごみの収集運搬・処分・リサイクルを行う会社です。毎月1日にごみ拾いをする市民団体「PICKING UP MIND」の活動にも参加し、拾ったごみの処分やリサイクルのお手伝いをしています。また、中間処理製造業をテーマに、産学官民の協働で一般家庭から回収した枝葉を焼却し、その熱源を電気に替え、野菜を育てる事業も始めました。今後は、ごみを資源に豊かな社会を作りたいと考えています。

## みんなの声

投稿 随時募集中

投稿テーマ 「これも協働!？」暮らしの中で感じた人とのつながり  
投稿方法  
投稿フォームを使う QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。  
協働センター窓口で投稿する 協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。



投稿者 気ままなジャーニー さん  
60代の母と温泉施設に行った時の話です。孫と一緒にだったからなのか、妙にはしゃいだ母がのぼせて脱衣所で倒れてしまったんです。突然のことにアタフタ。そこで、見ず知らずの人たちが親身になって介抱してくれ、すぐ助かりました。母の年齢を感じる出来事でもありましたが、人とのつながりを感じることもできた出来事でした。